

佳作

## 「じいちゃん大好きだよ」

茨城県

行方市立玉造小学校 四年

宮本 香奈

今日も、じいちゃんが、わたしの事をよぶ声が聞こえる。

「かなー。かなちゃん。かーこさん。」

多分、たいした用事ではない。わたしは、

「じいちゃん、何か用。」

と聞く。すると決まって言う言葉がある。それは、

「じいちゃんかなちゃんの事が大好きなんだけど、かなちゃんはじいちゃんの事好きかな。」

わたしはその場からにげるように、

「じゃあね。」

とだけ答える。するとじいちゃんは、追っかけてきたり、後ろからプロレスのわざをかけてくる。結局、じいちゃんの力に負けてしまい、無理矢理、大好きと言わされてしまう。ちょっぴりかわっていて、楽しいじいちゃんです。

じいちゃんは、年に三回ぐらいわたしと弟を、温泉旅行に連れて行ってくれる、やさしいじいちゃんでもあります。今年の夏は、福島に連れて行ってくれるそうです。船に乗るので、カモメに電話して、みんなで、わたしの所に遊びに来てくれるように、たのんだそうです。多分それは、うそだと思います。わたしも四年生なので、カモメが電話に出れないのはわかります。でも、じいちゃんは平気でそんなうそをつきます。でも、うそだとわかっていても、ニコニコしているじいちゃんお顔をみると、

「そうなんだ。」

と答えてしまいます。わたしも、うそつきかもしれません。

毎朝、わたしが朝、目を覚ますころ、じいちゃんは工場で仕事をしています。わたしがねむるころも、まだ工場で仕事をしています。じいちゃんはどうしても働きものです。ばあちゃんに

「なんでそんなにじいちゃんは仕事しているの。」

と聞いた事があります。するとばあちゃんは

「かなちゃんと旅行に行ったりごはんを食べに行くために、一生けん命仕事しているんだよ。」

と言いました。わたしはすぐくうれしかったけど、じいちゃんの体の事が心配になりました。

毎日一緒にいると、あたり前すぎてなかなか言えないありがとうの言葉。なんとなく照れくさくて言えない大好きの一言。雨の日に学校まで、むかえに来てくれるじいちゃん。

わたしが熱を出すと、

「悪い病気早くじいちゃんにつつれー。」

と言ってくれるじいちゃん。いつも、本当にありがとう。

わたしが、温泉に連れてってあげるから長生きしてね。約束だよ。明日はすぐ言っよ。

「大好き。」

って。